



工作教室に 20 組の親子参加

浜岡東小学校で7月26日、20組57人の親子が参加し親子工作教室が開催されました。同教室の講師は、小笠建築合同組合、御前崎市建築組合、御前崎職工組合の熟練職人ら12人が務めました。小笠建築合同組合・小笠高等職業訓練校長の阿形健二さんは「私たち職人には思いつかないような作品を作っていた。ぜひ大切にに使っていただきたい」と話しました。

◀協力して木材を切る親子



コロナ禍の観光経営を思案

御前崎市観光協会が8月3日、観光支援セミナーを市観光物産会館「なぶら館」で開きました。同セミナーには市内の宿泊業関係者ら20人が参加しました。講師を務めたのは、星野リゾートなどで経営に携わり、現在コンサルタント業を営む伊藤史紀さん。コロナ禍での宿泊業界の現状や参加事業者の悩みなどを踏まえ、対応策や今後の経営へのヒントを伝えました。

◀市内の宿泊業関係者らが参加した観光支援セミナー



医療現場の仕事を模擬体験

就職を希望する池新田高校の2年生が8月6、7日の両日、市内の工場や美容院などで職業体験をしました。市立御前崎総合病院では、生徒8人が院内のさまざまな機能を有した器具や施設を見学したり、血圧測定や心臓マッサージなどを体験したりしました。我妻真生さん(大山)は「看護師の仕事は常に命と隣り合わせ。責任感が必要だと感じた」と話しました。

◀聴診器で心臓の音を聞く生徒



原爆被害の悲惨さを伝える

広島と長崎に米軍が投下した原子爆弾による被害を伝える被爆者写真展が、8月7日から16日にかけて市立図書館アスパルで開かれました。同写真展には、壊滅したまちの様子や炭化した親子の遺体の写真など70枚が展示されました。写真展に訪れた名波優太くん(東町)は「悲しい気持ちになった。もう二度と戦争を起こしてはいけないと感じた」と思いを語りました。

◀「被爆写真展実行委員会」が主催した写真展